

平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会

第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

平成20年7月29日(火) 一回戦

Jコート 第4試合 本庄市児玉総合公園体育館(エコーピア)

彩夏到来 08 埼玉総体



チームA		26 - 15		チームB
札幌山の手 北海道	78	17 - 21	64	浜松開誠館 静岡
		23 - 18		
		12 - 10		

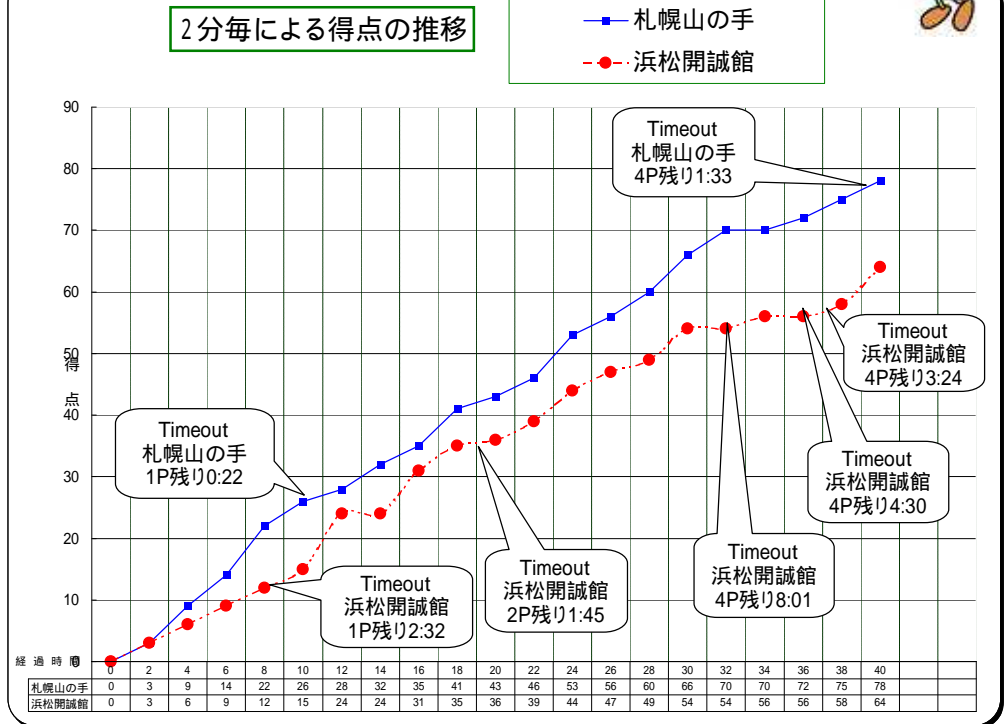
札幌山の手

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	齊藤桃子	X	20	2	5	6	14	2	2	1	4	6	3	0	0	1	34
5	平野咲子	X	15	0	2	5	10	5	6	0	3	8	5	4	4	0	39
6	山田千智	X	7	2	10	0	0	1	2	0	0	3	0	1	2	0	34
7	小山さおり	/	10	0	1	4	11	2	2	0	3	2	0	0	0	0	21
8	元茂麻湖	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
9	岡亜理紗	/	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10	栃本美紗子	X	7	0	0	3	5	1	1	2	3	9	4	2	1	1	31
11	今野真澄	X	15	1	2	5	9	2	2	1	1	1	1	3	1	2	26
12	千田美喜子	/	4	0	0	2	2	0	0	2	2	1	0	0	0	2	9
13	高田汐織	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
14	本川紗奈生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
15	町田瑠唯	/	0	0	1	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	4
コーチ	渡邊勝也	/	/	/	/	/	/	/	/	0	3	4	/	/	/	/	/
出場: ×は先発、/は出場			78	5	22	25	52	13	15	8	20	34	14	10	8	6	200
確率				22.7%		48.1%		86.7%			計	54					

浜松開誠館

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	小笠原みどり	X	17	4	16	2	2	1	1	3	1	4	4	3	9	2	40
5	大長亜佐美	X	7	0	0	3	8	1	5	2	1	4	1	0	4	0	36
6	伊野瀬碧希	/	2	0	2	1	2	0	0	0	0	3	1	2	2	0	15
7	片桐千奈	X	13	3	5	2	6	0	4	4	3	1	1	1	1	1	36
8	鈴木沙祐里	X	12	4	10	0	0	0	0	4	2	2	3	1	0	1	40
9	石川奈都乃	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
10	小澤緑香	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
11	岩室郁美	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
12	山下まどか	X	13	3	9	2	8	0	0	1	0	3	5	0	0	0	33
13	小松真菜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
14	土屋かれん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
15	木村礼芽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
コーチ	三島正敬	/	/	/	/	/	/	/	/	0	8	9	/	/	/	/	/
出場: ×は先発、/は出場			64	14	42	10	26	2	10	14	15	26	15	7	16	4	200
確率				33.3%		38.5%		20.0%			計	41					

2分毎による得点の推移



戦評

25年連続、32回目の出場となる札幌山の手と、激戦を勝ち抜いてきた浜松開誠館の戦いが始まった。第1P、両チームともハーフマンツーマンで開始。札幌山の手は#11今野、#7小山のドライブインで攻撃をしかけ、浜松開誠館はガード#4小笠原を中心にくずし、外角のシュートで対抗する。両チームともディフェンスが激しく、一進一退が続くが、リバウンドに強い札幌山の手が26対15のリードで終わる。第2P、浜松開誠館は#12山下らの3Pが決まり始める。#5大長のインサイドプレーもからみ、5分で1点差まで追いつける。しかし、札幌山の手は#4斎藤、#11今野が3Pを決めるなど、落ち着いたプレーをみせ、43対36で札幌山の手リードのまま後半へ。第3P、浜松開誠館は2-2-1のゾーンプレスから札幌山の手を誘う。しかし、機動力のある札幌山の手は#11今野、#4斎藤の1対1から点を重ね、なかなか点差が縮まらない。残り1分、札幌山の手は#7小山の連続ドライブで66対54と札幌山の手リードのまま最終ピリオドへ。第4P、浜松開誠館のシュートが落ちはじめると、札幌山の手は1対1からのドライブが機能し、点差が開いてしまう。しかし、浜松開誠館も粘り強く#4小笠原、#8鈴木を軸に攻撃をしかける。ディフェンスもプレッシャーをかけ、札幌山の手を誘うが、なかなかシュートが決まらない。結局、機動力に勝る札幌山の手が78対64で勝利する。しかし最後まであきらめない浜松開誠館の2年連続出場は今後大きな力となるだろう。

主審	竹内 智己	副審	金子 公一	戦評	根本 靖雄 (埼玉県高体連)
----	-------	----	-------	----	----------------

3P: スリーポイントシュート、2P: 2ポイントシュート、FT: フリースロー、OF: オフェンス、DF: ディフェンス、TO: ターンオーバー、ST: スティール、AS: アシスト、BS: ブロックショット